



きらめく衣装に身を包んだメンバーの演舞が始まると、一瞬で華やかな世界に引き込まれていく。葦崎で唯一の「よさこい」チーム「にらさき秀麗（しゅうれい）」のパフォーマンスに心を奪われた瞬間だった。

「よやい」は高知県の民謡である「よさこい節」をリズムとした踊りで、絶えず新しいものを取り入れることで進化し続けており、伝統的な音楽だけでなくリズムカルでポップな演奏も取り入れられた他、髪型や衣装も派手さを増していき、振り付けもサンバ調やロック調など、古典と現代が融合した演舞である。

今月は、「よさこい」の魂ともいうべき鳴子（なるこ）を手に持ち、一人一人が本気で情熱を注ぎ込んでいるにらさき秀麗のよさこい踊りにか

シリーズ にらさきを元気にする人たち③

にらさき秀麗 葦崎を誇りに！。

けるその想いに迫ってみた。

取材に訪れたこの日、練習にも関わらず、秀麗の皆さんが圧倒的なパフォーマンスで私を迎えてくれた。汗まみれになり、一心不乱に踊る姿とその力強い眼光に感動さえ覚えた。

練習の合間、にらさき秀麗の代表の宮川けい子さんに活動理念を伺ってみたところ、「よさこい」を通して、地域の方々との交流はもとより、次世代を担う青少年に今を生きる力を与え輝かせたい」と話してくれた。

そしてもう一つ大切にして

いる想いがあるという。
それは、ふるさと葦崎に誇りを持ち、そして葦崎を元気にすることだ。

にらさき秀麗のオリジナル曲には、銀河鉄道や木タルの里、平和観音といった葦崎ゆ

かりの言葉が多く盛り込まれている。全国に葦崎を知ってもらい、元気な街にしたいというのが理由だが、なによりもまずは自分たちが葦崎を知り、愛着を、そして誇りを持たなければ見る者に想いが伝わらないのだという。

近年、全国各地でよさこい関連のイベントが行なわれているが、にらさき秀麗も年間30回程度これらのイベントや祭りに参加しており、そのすべてに「葦崎というプライドを持って臨む」ことを心がけているそうだ。

もとをたどれば、にらさき秀麗は、代表の宮川さんが、子どもと一緒に打ち込めるものとして「よさこい」を始めたのがきっかけだ。平成21年に正式にチームとして結成され、現在、10代の若者から主婦まで男女合わせて15名が活

動をしている。

「内向的だった性格が、今では活発で何事にも積極的に取り組めるようになった」「自分に自信が持てるようになった」「本気で熱くなれる仲間に出会えた」「葦崎が好きになった」と口々に話すメンバーの姿に、このチームの本質があるのだろう。



宮川さんに、これからのにらさき秀麗の野望？を問いかけてみた。「ふるさと葦崎でよさこい祭りを開くこと！必ず葦崎が元気になる！」「よさこい」にはそれだけの力がある。」と熱く語ってくれたその瞳の奥に、「よさこい」にかける情熱と、葦崎への誇りを見た気がした。

（取材・記事 広報担当 歌田）